



日本小児がん看護研究会
 Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
 — JSPON —
News Letter

2007年7月
 第6号



日本小児がん看護研究会も5年目になりました。ニュースレターの発行も、年に2回を目指してがんばっております。研究活動では、ガイドライン作成に向けて現在進行中です。今回のニュースレター第6号では、第3回東地方研修会の報告、第5日本小児がん看護研究会のお知らせ、第4回関東地方研修会のお知らせ、平成18年度の活動報告をいたします。

第5回 日本小児がん看護研究会のお知らせ

下記の要領で第5回小児がん看護研究会を開催いたします。日本小児がん学会、日本小児血液学会、および財団法人がんの子供を守る会公開シンポジウムとの同時期開催4年目になります。「トータルケアの原点に戻る」を、来年度との連続の主題とし、今回は特に「子どもと家族の継続的支援」を副題としました。

会員の皆様方の演題のご応募、ご参加をこころよりお待ち申し上げます。

東北大学医学部保健学科 塩飽仁

テーマ：トータルケアの原点に戻る：子どもと家族の継続的支援

日時：平成19年12月14日（金）、15日（土）

会場：仙台国際センター

会長：塩飽 仁（東北大学医学部保健学科看護学専攻）

●第1日 平成19年12月14日（金）

○総会

○特別講演「トータルケアのはじまり」 戈木クレイグヒル滋子（首都大学東京）

○特別講演：「いのちの尊さを考えるー子どもに死を教えるときー」アルフォンス・デーケン（上智大学名誉教授）

○口演発表、示説発表

●第2日 平成19年12月15日（土）

○教育講演「小児がんの子どもへの継続的支援～長期入院後のこどもの復学のケア～」有田直子（神奈川県立こども医療センター小児看護 CNS）

○シンポジウム：「子どもと家族の継続的支援」

○口演発表、示説発表

○懇親会

●演題募集要項

特にカテゴリーは設けておりません。小児がんの看護について多くの演題をお待ち申し上げます。

○演題募集期間：7月10日（火）から8月14日（火）

○応募資格：演題発表者は共同研究者も含めて、本研究会の会員といたします。

○演題申込はすべてインターネットでのオンライン登録です。詳細は下記のホームページをご覧ください。

学会ホームページ：

<http://www.congre.co.jp/2007gan-ketsueki/>

○発表形式：口演もしくはポスターよりご選択ください。

○文字数制限：演題タイトルは全角52字以内、抄録本文は全角1000字以内とします。

●参加費 看護師：7,000円、医師：15,000円

+++++

第3回関東地方研修会の報告

第3回関東地方研修会は「子どもたちへの病気の説明や告知」をテーマに平成19年2月3日（土）、神奈川県立こども医療センター講堂で開催されました。

はじめに聖路国際病院副院長で小児科医長でもある細谷亮太先生から、講演「子どもたちへの病気の説明や告知」を聞きました。飾らない率直な語り口で、先生の出会われた子どもたちとの間での告知をめぐる事例やエピソードを話され、元気になって成長した子ども、なくなった子どもたちとの間で、よかったこと、嬉しかったことともに、うまくいかなかったこと、困ったことなども話され、「いつ、どう話すか」には正しい答えのないことがよくわかりました。また、子どもと、生きることや死ぬことについて話し合い考えるために、絵本をたくさん紹介されました。細谷先生ご自身の著書や、翻訳されたものなど、どれも絵もきれいで、内容も魅力的で私たち自身が手にとってゆっくり読みたいものばかりでした。「告知しなければならぬ！」と困難な課題に悩むナースにとって、「焦らないで！」「自然に！」と心癒されるような講演であったと思います。

休憩後はパネルディスカッションが行われました。最初の発言者、神奈川県立こども医療センター、高橋雄一氏からは「精神科医の立場から」過酷な治療から精神症状を呈する「適応障害」が起こることが

多いこと、それはただ精神的負担が大きいためだけではなく、個別的な性格や発達状況、生活環境などさまざまな要因が関わってくることで、子どもの精神的安定にとって「家族」が重要であるが、その家族を支える体制が必要であることが話されました。「病気についての説明や告知」にあたっては、個々の子どもと家族の背景を理解したうえで将来を見据えて行うことが望ましく、かかわる人々の多角的な視点が必要であると述べられました。そしてこども医療センターで始まっているコンサルテーション・リエゾン活動について紹介されました。

二人目の発言者、神奈川県立こども医療センター専門看護師、有田直子氏は、臨床経験と研究から子どもたちは「自分の病気について知りたい、何も知らないのは怖い」と思っていること、また家族は「子どもにどのように病気については話すことが一番いいのかを真剣に考えていること、そして看護師は、「こどもにとって最善の説明」が行われるように他職種と協働し、悩んでいる家族とともに考えてゆくことが重要であると述べられました。また「看護師はこどもと家族が抱えているさまざまな気持ちを理解し、多職種がチームで関わって子どもと家族をサポートすることが重要であると理解はしているが、チームの中でその役割を果たすことができているだろうか」と問いかけられました。ひとりひとり異なる背景、個性、成育歴をもつ子どもたちに個々に応じたケアをどう進めていくか、こども医療センターで行われている試みを紹介しながら、一人ひとりが自問自答することを求められるような意味深い内容でした。

病気の説明や告知について十分なケアができているか、多職種チームによる多角的な視点から支援するシステムができているかなどを自らに問う会場のやや重い空気を吹き飛ばすような元気な三人目の発言者は、小児がん経験者で「小児がんネットワークMNプロジェクト」代表小俣智子氏でした。自身の闘病経験から子どもたちが周囲のひとや親にも言わないでいる本当の気持ちや、周囲をよく観察し状況を理解してその上で周囲の人々に配慮していること、病気について「何の病気？」というよりは「なぜ自分がこの病気に？」を疑問に思うこと、治療中は仲



間の存在が大きいことなどを述べられました。診断のときから治療終了まで、さらにその後も、支援してくれる人々、仲間や医療従事者など支援者の力が大きいことをご自身の経験から話されました。病気についての説明や告知については「いつ」「誰が」話すかが重要で、病気を理解し受け入れていくためには身近な人の支えが重要であること、そしてその身近な人もまた支えを必要とすると述べられました。今回のテーマは「こどもに病気について告知することですが、小児がん経験者はやがて自分で周囲に対し「告知」していかなければならないことを示唆され、周囲に自分の病気を説明し、社会で対処してゆくときに、支援ネットワークは重要であることを医療ケースワーカーの視点も交えて図式化して示されました。

参加者は、会員55名、非会員55名、家族・学生6名、来賓1名、学生ボランティア8名、計125名でした。終了後のアンケートでは、講演もパネルディスカッションも好評でとくに「医療・看護の実践からの具体的な内容を聞いたこと」、「小児がん経験者の率直な話を聞いたこと」から感銘を受け、今後の実践に役立つとの記述が多くありました。会場の狭さや交通の便の悪さに対する苦情が少数ありました。

会場をご提供くださり、会にも来賓としてご参加くださった神奈川県立こども医療センター松田慶子看護局長、準備から当日の運営まで種々ご尽力いただいた同センター看護師の皆さま、会場係・受付係にボランティアとして活動して下さった神奈川県立保健福祉大学の学生の皆さんに心から感謝申し上げます。

平成18年度役員からの報告

〔会員について〕

平成19年3月現在、一般会員数は293名、賛助会員はへるす出版(株)とキリンビール(株)です。

〔平成18年度役員会〕

- 第1回 2006年 5月26日(東京医科歯科大学)
- 第2回 2006年 8月5日(都内会議室)
- 第3回 2006年11月11日(日本赤十字武蔵野短期大学)
- 第4回 2006年11月24日(大阪国際会議場)
- 第5回 2007年 2月24日(日本赤十字武蔵野短期大学)

〔役員について〕

役員

- 会長 梶山祥子
- 副会長 丸光恵・門倉美知子
- 庶務 内田雅代
- 会計 石川福江・上坪成子
- 研究会 小原美江・内田雅代
- 機関誌 小川純子
- 広報 富岡晶子・前田留美
- 監事 森美智子・石橋朝紀子



委員会

- 研究委員 内田雅代・小原美江
- 編集委員 森美智子・野中淳子・佐藤美香
- 研修委員 梶山祥子・二川美洋子・浅田美津子

〔平成18年度会計報告〕

〈一般会計 収入の部〉

項目	決算額(円)	内訳
1.会費		
会員年会費	1,220,000	244名(新入会69名)
賛助会員会費	120,000	
雑収入	8,565	
2.前年度繰越金	1,624,676	
計	2,973,241	

〈一般会計 支出の部〉

項目	決算額(円)	内訳
1.会議費	0	
2.事業費	692,155	ニュースレター発行、研究会誌発行、第3回関東地方研修会など
3.研究会事業費	300,000	特別会計へ
4.事務費・その他	123,426	通信費・人件費など
合計	1,115,581	

収入 2,973,241

支出 1,115,581

収支 1,857,660

〈特別会計 収入の部〉

項目	決算額(円)
前年度繰越金	338,464
雑収入(第3回関東地方研修会、第4回研究会からの収益、預金の利息)	363,319
合計	701,783

〈特別会計 支出の部〉

項目	決算額(円)
	0
合計	0

平成18年度会計は、監事森氏、石橋氏により監査を受け、承認されたことをご報告いたします。



日本小児がん看護研究会

第4回関東地方研修会のご案内

日時:2007年8月27日(月)9:30~16:30

会場:国立成育医療センター

(<http://www.ncchd.go.jp/>)

テーマ:小児がんの子どもQOL

講演1「小児がんの子どもQOL」

講師:セントジュード小児研究病院看護研究室長

Pamela S. Hinds

講演2「処置への非薬理学的アプローチ」

講師:ポローニア大学付属病院サントオールソラルピギ病院

小児科医師・精神科医 Dorella Scarponi

*講演は同時通訳つき

シンポジウム「小児がん看護ケアガイドラインの開発と検討」

発題:長野県看護大学 内田雅代

シンポジスト 小児がん経験者、家族、臨床看護師、医師
ケースワーカー

〈平成19年度年会費納入のお願い〉

平成19年度の年会費、また、それ以前の年会費をお支払いいただいていない会員の方は、封筒のあて名ラベルに未入金年度の赤字で記入してあります。(H19年度を未納の方は、「H19」)すでにご入金いただいている方には、何も記入してありません。年度が記入してある会員の方は、下記振込先までお支払いください。なお、入れ違いでご入金された方がいらっしゃいましたら、ご容赦ください。ご不明な点がございましたら、研究会事務局(TEL/FAX:0265-81-5186・5184)まで、お問い合わせください。

会費振込先:郵便振替口座 00590-9-79689

口座名称 日本小児がん看護研究会

年会費:5000円

日本小児がん看護研究会機関誌編集係

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学看護学部 小児看護学教育研究分野

小川純子

E-mail: junogawa@faculty.chiba-u.jp